

# 令和3年度 学校経営重点計画

学校番号 ( 23 ) 学校名 ( 熊本市立清水小学校 )

## 学校教育目標

「『いいね』で認めあい、支えあい、伸ばしあう学校」  
～ 自分で自分を幸せにできる児童の育成を目指して ～

## 現状と課題

- 1 以前は落ち着かない時期もあったが、ここ数年は児童は落ち着いており、授業へも集中して取り組むようになってきている。学力保障はまだ課題であり、学力の2極化が進んでいる。ICTを活用した授業を進めている。
- 2 他者のよさや違いを認めることができずに、攻撃したり排除するような行為に出る児童が少なくない。「いいね」の取り組みが浸透しつつあり、認められる場面が増えて落ち着きが出てきた児童もみられた。
- 3 基本的な生活習慣が身につけていなかったり、規範意識の低かったりする子どもが見られる。
- 4 若い教師も多くベテランに習いながら頑張っている。ミドルリーダーは少ないが、校務分掌の重要なポジションで取り組んでいる。チームとして共通理解のもと協働して取り組む雰囲気がある。

## 校長としての経営のポイント

- 授業力の向上を目指す校内研修の充実
  - ・効果的なICTの活用に重点をおいて取り組む。
  - ・新学習指導要領が示す視点の理解と試行
  - ・道徳の評価の充実
  - ・児童が活躍する特別活動や学校行事
  - ・学習規律の徹底
  - ・効果的な少人数指導、専科指導
- 「いいね」でつくる支持的風土を持つ集団
  - ・結果より過程や努力を認め、意欲を維持向上させる取り組み
  - ・児童の考え（考え不足）やモラルとのずれ、周りとの関係に注目させる生活指導
  - ・児童が認めあい主体的に学びあう授業展開
- 共通実践の徹底
  - ・学年会、主任会での共通実践の確認、評価
  - ・主任を中心とした組織的な取り組みの充実

## 変容した学校の姿

- 子ども一人ひとりが授業や学校生活の中で生き生きと活躍し、自らのキャリアを設計して自分の未来を切り開く学校。
- あいさつが溢れる学校、自ら先にあいさつする児童。無言掃除に取り組み、楽しくボランティアに取り組む児童。
- 職員一人ひとりが学校目標を意識し、清水小の子どものために、協働して組織的に実践に取り組む学校。

重点目標	評価指標	主な具体的方策
○友達の良さを認めると同時に、自分の良さに気づき、自己肯定感を高める。	・「友達の良さを見つけることができた」「自分には良いところがある」と感じることができる児童の割合を絆アンケートで80%以上にする。	・授業の場や学校生活の場で、結果のみではなく過程や努力を「いいね！」と認める声かけを行っていき、チャレンジする姿勢の向上を図る。 ・児童主体の「あいさつ運動」「そうじ強化週間」等の実施 ・学校行事等で児童が主体的に動き活躍できる場を設定する。 ・挨拶と掃除のレベルアップ（自分から先にするあいさつの指導、見つけ掃除・ボランティアの充実）
○学習に対して、ICTを活用して、意欲的に取り組むことができる。	・「学習に意欲的に取り組んだ」と感じることができる児童を絆アンケートで75%以上にする。	・効果的な習熟度別の少人数指導の在り方の改善 ・チャイムで授業開始の徹底や聴く姿勢などの学習規律を徹底する ・授業の「めあて」の明確化と授業後の「振り返りの場」の設定 ・友達の意見を聞き、「いいね！」と肯定する学級経営。 ・ICTの効果的活用（ドリルパークの効果的な活用で基礎基本を徹底する）

## ◇働き方改革について

目標	現状	評価指標	主な具体的方策
目標1 正規の勤務時間外の在校時間が1ヶ月80時間を超える教職員数を0人にする。	昨年度、年間を通して1か月80時間を超える職員はいなかった。	今年度も1か月80時間を超える教職員数を0人にする。	教頭および新採3年目までの教諭の在校時間が長くなる傾向がある。学年での協働や19時閉庁を意識したタイムマネジメントを推進する。
目標2 教職員の正規の勤務時間外の在校等時間を1ヶ月45時間以内、年間360時間以内にする。	昨年度を平均すると、1か月30.4時間年間364.9時間であった。	平均で1か月30時間、年間360時間以内にする。	学年での協働やクラウドの有効な活用、午前中5時間授業の設定などで時間を確保するとともに、19時閉庁を意識したタイムマネジメントを推進する。
目標3 教職員1人あたりの年休の年間取得日数の平均を16日以上にする。	令和2年平均は、9日6時間25分の取得であった。	教職員1人あたりの年休の年間取得日数の平均を16日以上にする。	午前中5時間授業の日を月曜日に固定したり、長期休業中の会議・研修を集中して設定したりするなど、年休が取りやすい環境づくりをする。